
ココロの底

せいな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ココロの底

【Nコード】

N6025A

【作者名】

せいな

【あらすじ】

新一とコナンがいなくなってしまう時の蘭の気持ちを書いてみました。

（前書き）

初めて書いたので、文章はめちゃめちゃかもののですが、よんでいただけると嬉しいです。

大好きだよ。私、新一のコトココロの底から愛してるよ。

あなたとの出会いは私の記憶にないけれど、あなたとの別れはなぜこうも鮮明に私の記憶に刻みこまれているのだろうか。
楽しい時間を思い出すたび、あなたを失った悲しみがこみあげてくる。

新一、さよならなんていわないで。私はあなたのコトを、こんなにも愛しているのに。

（3カ月前）

それは突然の電話だった。

『もしもし、蘭。俺だ。』

あんなあゝ、俺もう蘭のトコロに帰れそうもない。だから、もう俺のコト待たないでくれ。

でも、もしまた会えたら、きちんと話がしたい。

本当に俺、自己中だな。。。』

『待たなくていいってどうゆうこと！？私は、待つことさえも許されないの???なんで???なんでなの?新一!?!』

『本当にゴメンな、』

たったそれを最後に新一との連絡は途絶えてしまった。

丁度同じ日に私の家で暮らしていたコナン君も自分の家へと帰って行ってしまった。

寂しい日々はこうしてやって来た。

そして今日は、私の誕生日だ。でも、いつもと同じ24時間変わらない。

ただ、いつも以上に彼を思い出してしまうコト以外は、、

くピンポーン

家のチャイムがなった。

時間は、まだ朝の5時30分。誰だろう。。。

ドアへと近付くと自然に涙が溢れだした。

『、、、、新一？』

『俺、蘭のことが本気で好きだ。だから、このまま聞いてくれ。顔みると泣いちまいそうなんだよ。』

『、、、、バカ。新一のバカ！！今までなにしてたのよ。どれだけ悲しい思いしたと思ってるの。。。』

『わるかった。でも、3カ月前までは、お前をいつも一番近くで見守ってたんだ。。。』

その時私は、コナン君が新一で、黒の組織との戦いのために3カ月の間、私に連絡がとれなかったこと、そして黒の組織から私を守るために、私との連絡を断ち切ったことを聞かされた。

今日は私の誕生日。プレゼントは今日までの悲しみさえも喜びにかえてしまう、不思議な力をもった彼。

大好きだよ、新一。だから、もうさよならなんていわないで。。。

（後書き）

読んで下さって本当にありがとうございます。

いかがでしたでしょうか？

やはり小説を書くのは難しいですねっ。。。。

頑張ったんですが小説にすらなりませんでした。泣

繰り返しになりますが、ここまで読んでいただき本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6025a/>

ココロの底

2010年10月11日01時34分発行